



日口交流

発行：特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



イワン・クパーラ in 災熱の猿島

安部 花子

7月16日、猿島でのイワン・クパーラに参加しました。この日は今年初めて、日本中が異常な酷暑に直面した三連休の最終日で、もうとにかく暑い日でした……。

私は今回で3回目の参加ですが、例年、夏休み直前の人の少ない静かな浜辺で、20名弱の「しつぽり大人のBBQ」という表現が相応しいような会が多くたのです。しかし、今回は一変、33名の参加者の約半数以上がスラブ系で、会場も、猿島という横須賀中央駅からフェリーで行けるメジャーな観光地。夏休み時期であることも相まって浜辺は人でごった返していました。

フェリー到着後、どうにかチームプレイでBBQセットと場所を確保し、食事の準備を始めます。今年は子供たちの参加がとても多くて、海を見たとたん、蜘蛛の子を散らしたように一目散。大人たちも、子供たちと一緒に海に入ったり、パラソルの下で準備をしたり、島のレストランに休憩しに行ったり……。そう、どんな状況にあっても、各々が自由にのびのび過ごすことができるこの「ゆるさ」こそが、イワン・ク



バーラの最大の魅力なのです。みんなが好き勝手に過ごしても、意外とうまく物事は回る——私が毎年のイワン・クパーラで学んだ一つの真理です。かくいう私も炎天下の場所取りで体力を消耗してしまったため、BBQセットの設置が始まってすぐにその場をバトンタッチし、島のレストランに避難していました。

レストランから戻ると、ブリヌイ代わりのトルティーヤや、豚肉のシャシリク、野菜の酢漬けなど、およそ日本人だけのBBQではお目にかかるないような食べ物がたくさん並んでいました。人種・性別関係なしに、美味しいね、とみんなと一緒にそれらを頬張るのは、よそではなかなか体験できない、とても貴重な異文化体験でした。

食事がひと段落したあとは、島内探検に出かけました。もともと要塞であった猿島には、重厚な雰囲気を醸し出すレンガ造りのトンネルや弾薬庫、兵舎や砲台跡などが今も残っており、貴重な歴史の遺産を見学できました。多少の登り下りはあったもののおおむね歩きやすい遊歩道で、何よりパラソル以外に日陰のない浜辺に比べ、樹々の生い茂るうつとした遊歩道は天然のクーラーが効いているかのような快適さです。うだるような暑さを忘れ、しばし歴史のロマンに浸りました。

毎年のイワン・クパーラでは焚火の上を飛び越えたり、花冠を海に流したりするのですが、今年はスペース上の制限から、断念。それでも、スラブ系参加者の有志の方が可愛らしいブラウスの衣装を持参してください、それを着てみんなで写真撮影したので、イワン・クパーラらしく会をしめることができました。

今回は様々な「想定外」が重なった過酷な環境でしたが、それでも一人の急病者も出さず楽しく終えることができたのは、運営の方々の尽力によるものが大きかったと思います。この場を借りて感謝いたします。本当に疲れ様でした。

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。

振込先：郵便口座 00160-9-66486、加入者：日口交流協会

連絡先：日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org

お知らせ

●テーマ別ロシア語第7回「映画、テレビ」

日時：9月9日(日)13:00～16:00

場所：田町「リープラ」2階学習室D2

費用：会員3,000円、一般4,000円

講師：オクサーナ・ピスクノーワ

●第55回マトリョーシカ絵付け教室

日時：2018年9月16日(日)13:00～16:00

講師：菅野エレーナ

場所：田町駅みなとパーク芝浦、「リープラ」造形表現室

会費：3,000円(5個セットの教材、講師代、お茶代含む)

*第56回は10月28日(日)13:00～16:00です。

●ロシア語クラス生徒募集中！

平日クラス月4回￥5500×3ヶ月前納。

初級2(月)19:30-21:00、初級クラス1(水)18:30-19:30

準中級会話(月)18:00-19:30

上級クラス(土)10:00-11:30、購読(第4土)13:30-15:00

*講師の都合などで休講になることもありますので、見学をご希望の方は予め事務局までご連絡ください。

●ロシア料理講習会V

日時：2018年9月24日(月・祝)13:30～16:30

場所：田町駅みなとパーク芝浦「リープラ」2階、料理室

内容：ブリヌイ、はりねずみのミートボールスープ

費用：会員2,000円、一般3,000円

講師：マイヤ・ノイ

*エプロン、布巾、タオル、持ち帰り容器をご持参ください。

*お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで

Tel: 03-5563-0626 nichiro@nichiro.org



日口経済セミナー 「ロシアを跨ぐ国際物流回廊 シベリア・ランドブリッジ 一带一路、北極海航路」

塩沢 加代子

6月23日(土)、環日本海経済研究所名誉研究員の辻久子先生による「ロシアを跨ぐ国際物流回廊 シベリア・ランドブリッジ、一带一路、北極海航路」と題した日口経済セミナーに参加する機会を得ました。



まずは、このセミナーに私が関心を持った経緯をお話しします。今年はロシア大統領選挙から始まり、日露交流年、そして全世界の注目を集めたFIFAワールドカップ ロシア大会の開催もあり、ロシアへの関心を持たないわけにはいかない年です。急激にロシア関連の情報量が増え始め、もっとロシアのことを知りたいと思っていたところ、今回のセミナーが開催されることをホームページ上で知りました。近年、国際情勢が変わりつつある傾向もあり、このセミナーの内容は今後の展開を読む上で参考になると感じました。セミナー紹介文には最近一段と世間を賑わせている「一带一路」というキーワードとともに「地球温暖化を追い風に北極海を航行する海上輸送ルートが実用段階に入り…」という、かなり興味をそそられることが書いてあります。さらに講演してくださる先生のご経歴を拝見しますと、以前私が担当した取引先名があり個人的に先生への興味関心度がグッと高まりました。満員になり次第締め切りとのことで急いでセミナー参加の申し込みをした次第です。会員ではない一般の人にも広く門戸を開いてくださっている点も素晴らしいと感じました。

当日は激しめの雨が降る中、このテーマに関心を持った熱心な方々が多く来られ、セミナー開始前から会場に良い緊張感を感じました。すでに壇上に上がられている先生の雰囲気

からも、今日のセミナー内容への期待感が高まります。当日の先生は黒地にピンストライプのシャープなジャケット、胸元にはおしゃれなブローチが輝き、鮮やかなピンクのネイルがとても印象的です。

セミナーは、ロシアの経済・貿易構造・日口貿易の現状といった全体像を把握してから国内ならびに国際物流関連の話に進むという、ロシア初心者にはとても理解しやすい構成を用意していただきました。

まずロシアの東西約一万キロに及ぶ地理と鉄道とパイプラインによる物流モードの特殊性等にこれまでの理解との乖離に圧倒されましたし、それらを裏付ける詳細な最新のデータと量には感服でした。

ロシアには高速道路がないことやシベリア鉄道の白樺林を走り抜けるとあったのですが、鉄道輸送が石炭の輸出輸送に特化し、片道輸送となっているという事実に驚きです。随所で日本との関わりを紹介いただいたことで、より身近な内容に感じることができました。ロシア物流業界の生の声を取材していらっしゃる先生ならではのお話も多く拝聴することができ、大変興味深かったです。また、参加した皆さんからの実務に直結したご意見や、司会を務めてくださった益田様のロシア鉄道輸送経験談等も伺うことができ、刺激的で貴重な機会でした。

今回のセミナーに参加したことによって、ロシアについて期待以上に多くの知識を得ることができたと実感しています。大変ありがとうございました。今後も様々な企画に参加してみたいと思っています。(金融関連会社)

係が深まっています。

大使は、日口間の更なる関係強化と、相互国民の友好の発展には教育分野が最も大切な分野であると強調しました。日口学長会議や、日口学生フォーラムなど教育を通じた人的交流の拡大が将来の関係発展の鍵となり、留学生数の拡大や、観光客の拡大など、人的交流の拡大を通じた草の根レベルでの日口交流が国同士の関係を作っていくと話しました。自身も日本で学んだ経験がある大使は、両国の若者たちがお互いの立場を超えて友情を育むことが最も大切であると確信されているようでした。

最後に大使は、日口首脳間の緊密な連携にもかかわらず、先に述べた国際関係が両国の関係にも影を刺していると話し、日本はG7の一員として、ロシアに対して厳しい立場を取る声明に署名するなど、ロシアにとって看過できない問題があると紹介しました。大使が示した懸念は、厳しい国際情勢の中で、日本とロシアの友情が試されている、刻々と変わる国際関係から私たちも目を離してはいけないと強く感じました。

講演後の質疑応答では、大使と旧知の仲である外交関係者や学識経験者から日口間の未解決の問題や政治的な立場について熱い議論が予定時間を超えて交わされました。厳しい主張の中にも相手への尊敬とロシアを背負う使命感、日本への見識の高さが伺える大使のお話には、とても感銘を受けました。また、全てのやり取りを日本語で、さらに通訳なしで挑んだ大使の日本語に対する思い、努力に対して深い敬意を抱きました。数々の問題を乗り越えて日口関係がさらに発展、深化することを願っています。

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております

ガルージン大使講演会に参加して

田牧 陽一

6月26日(金)都内の国際文化会館で、ミハイル・ガルージン駐日ロシア大使が「日ロ関係の展望」と題して講演を行いました。会場には開始の30分以上前から多くの人が訪れ、ロシア外務省きっての日本通として知られる大使の講演への関心の高さが伺えました。講演は、ロシアから見た国際情勢、日ロ関係、質疑応答の3部構成で行われました。

昨今の国際関係について大使は、多国行動主義と一国行動主義の対立軸を示しました。ロシアが主要メンバーであるG20(G7の拡大版)とBRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)などの多くの国が協力した枠組みが活性化して、世界は国際協調の大きな流れが進んでいます。そして、ロシアは多国行動主義の一員であると話しました。一方、アメリカを中心とする西欧諸国では、国際協力を無視した、自国最優先主義が勢いを増し、国際社会では対立の兆しもあると指摘しました。

一方、日ロ関係に目を向けると活発な首脳外交が展開され、サンクトペテルブルクの経済フォーラムに日本から首脳が初めて参加するなど、かつてないほど信頼関係が高まっていると指摘し、9月に予定される東方経済フォーラムでも再度の会談が予定されるなど、緊密な関係を紹介しました。ロシアが推進する北極海航路に日本が協力をするなど、政治、経済の分野でも関



ロシア料理講習会Ⅲ

山根 佳子

7月1日(日)、マイヤ・ノイ先生による第3回ロシア料理教室が開催された。今回のメニューはズラズィとカルトーシュカ。ズラズィはポーランドからベラルーシ経由でロシアに伝わった料理で、基本的にはひき肉を丸め、ジャガイモやきのこ・卵などの具を詰めて揚げ焼きしたもの。今では色々な食材の組み合わせがあるが、今回はひき肉にゆで卵を詰めたものと、ジャガイモにきのこを詰めた2種類を教わる。カルトーシュカはロシア語で「ジャガイモ」という意味のデザート。見た目が土付きのジャガイモに似ているからそう呼ぶらしい。

今回は「材料をつぶす・細かくする→混ぜる→成型→仕上げ」という工程がひたすら続く。各調理台に分かれ、まずジャガイモと卵を各々ゆでる。その間に玉ねぎときのこを刻み、炒めて塩コショウする。ひき肉に混ぜるつなぎの食パンを牛乳に浸す。一方でカルトーシュカ用のバターを常温に戻しハンドミキサーで柔らかくする。ビスケットをビニール袋に入れ、すりこぎで叩いて碎く。牛乳に砂糖をたっぷり加えて温め、冷ましたら割りほぐした卵に少しずつ混ぜ合わせる。次にこれを碎いたビスケットと混ぜる。他方、ジャガイモがゆだったらつぶし、ゆで卵は刻んでネギと和える。ひき肉を刻んだ野菜とふやかした食パンと混ぜて捏ねる。…「これって今から何になるんだっけ?」作業が多くて、どの材料がどの料理用かだんだんわからなくなってくる。時々マイヤ先生をつかまえたり隣の調理台をのぞき見て、何とかめげずに続行。ズラズィのひき肉は、ネギ入りゆで卵を中心に詰めてハンバーグのように形を整えパン粉

をまぶす。ジャガイモのズラズィも平たい丸形にして玉ねぎ・きのこ炒めを詰める。カルトーシュカのタネは小さい俵型にし、ココアをまぶして冷蔵庫で冷やす。その間に2種類のズラズィをフライパンで揚げ焼きにしていく。ひき肉に火が通り、両面がこんがりきつね色になつたら完成だ。

私達がてんてこ舞いの間に、マイヤ先生は付け合わせのそばの実を炊いて、トマトときゅうりのサラダも準備して下さった。どちらもシンプルな塩味やガーリック風味だが非常に美味。さすがマイヤ先生、プロならではの仕上がりだ。

私の今回のお気に入りはカルトーシュカ。ひんやりと甘くて柔らかく、口に入れるとココアの香りが広がる。マイヤ先生曰く、「ソ連時代の代表的なデザートなの。あの時代を生きた人なら絶対みんな知ってるわよ!」今回のようにビスケットを使うほか、クッキー・ケーキ等でも作れる。本場ロシアのレシピでは砂糖を今回の倍(!)入れるが、今回は日本風に甘さ控えめにしたこと。マイヤ先生も来日後しばらく経った今では、ロシアのお菓子が甘すぎると感じるそうだ。

ロシア語教室に通つてもうすぐ2年。最近「ヨシコちゃんがロシアに旅行するなら私も行ってみたい!」とか、「語学の勉強は人生の財産。いつかロシアを案内してね!」と言ってくれる友達が現れ始めた。趣味を地道に深めている私をはたで見て友人達も不思議なのだろうか。私の興味が、友人達の中で少しでも日ロ文化交流(ちょっと大げさ?)の助けになるなら、これほど嬉しいことはない。

り、案内してくれたり、写真を撮りましょうと声をかけてくれる人もいました。

セネガル戦を観たエカテリンブルクでは、文化交流でお世話になったエレーナさん、ユリアさん、バジムさんにお会いし、また隣街チェリヤビンスク(隣町と言つても車で3時間)ではナタリアさんや日本語を勉強している学生たちが博物館や街を案内してくれました。ロシアに来れば会える人がいる、というのは嬉しいことです。

ポーランド戦が行われたボルゴグラードは初めて行く街でした。Мамаев курганという丘の上に立つ、高さ85メートルのРодина-матерь(母なる祖国)像が街のシンボルです。第二次世界大戦中のドイツとの戦いの記念というものです。最寄りバス停に降り立つと像は遠いようにも近いように見えました。石段を登り、坂を登り、像は少しずつ近づいてきますがなかなかたどり着きません。気温40度の中、何度も「もうここまでで帰ろうか」と言いながらもやっと像の足元まで辿り着きました。足元から見上げたとき、初めてその大きさや力強さに圧倒され、とにかく最後まで登つてきてよかったです。

ポーランド戦では、ロシア人もたくさん見に来ていたようです。日本の応援団が、Катюшаを歌いました。歌詞はわからないので「オオオ~♪」で、みんなで大合唱です。いろんな国の人々がいる中で、それを聞いてふつと嬉しそうな表情をした人はロシア人だろうなと思いました。(常任理事)

この目でみてきたワールドカップ開催国ロシア

岩本 智子

ロシアワールドカップ2018は、フランスの勝利で幕を閉じました。せっかくのロシア開催ならばぜひ行こうと1年ほど前から準備し、ロシアがどのように世界からの人々を迎えたのか見てきました。

ワールドカップ開幕は6月14日、普通なら大学の入試の時期で、モスクワなど大学がある都市には受験のため地方から学生たちが集まります。受験生の宿を確保するため、今年に限り受験は5月までに終わらせたそうです。その結果夏休みが早く来た学生さんは生き生きとボランティア活動をしていました。また、ワールドカップの試合のチケットを取得した人は、ID申請が必要でした。インターネットで申請すると、驚くほどすぐにIDカードが郵送されてきました。このIDは、もともとスタジアムに入るときに提示するという指示でしたが、街を歩くときも身につけているとワールドカップのために来たという身分を保証してくれました。IDを提示すると公共交通機関が一部無料になりましたし、何より入国のときビザの役割も持っていました。(2018年中は、ビザとして有効なのだそうです。)試合が行われる都市は、会場までの案内板やガイドブック作成等の事前準備に追われたことでしょう。

グループリーグで日本戦があるエカテリンブルクでは、日本語版ガイドもあり事前にダウンロードすることが出来ました。このような国や都市としての活動が背景にあって、人々の歓迎ムードが出来ていたのだと思います。道を聞くと教えてくれた



● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております



男女平等参画フェスタinリーブラ2018

千葉 麻里

今年の3月で50回目になるマトリョーシカ絵付け教室が、田町の港区民センター「リーブラ」が毎年開催している「男女平等参画フェスタ」に参加することとなった。日頃リーブラで活動している中の51団体がステージや展示、販売などで成果発表をする。マトリョーシカ教室の生徒さんたちも自分の作品を出し、エレーナ先生が2日間にわたって実演、体験、販売を担当。子供たちと奮闘してくれた。



私たちが展示した学習室Dでは、他に天象短歌会や日本ファシリテーション協会などもテーブルを出して活動紹介、体験をしていた。他の団体と関わり、目にするのは初めてだ。

会場にはエレーナさんのロシア人の友人も駆けつけ、美人の外国人女性たちが子どもといふブースはちょっと目立った。協会の坂本さんや須藤さんも手伝いに来て、販売に協力してくれた。生徒さんたちのうち、初日は絵描きの宇野さんが来場者の似顔絵を描いてくれたり、三井さん、石井さん、春日井さんたち男性陣が応援にきてくれた。

体験コーナーは材料費が高いので、急遽エレーナさんがマグネットなどの安いものを供出して材料費のみで実施。子どもたちにも楽しんでもらえた。元値を割れない販売のほうはあまり渉りにくくなかったが、協会の他の活動も含めてチ

ラシを配布した宣伝効果はあったと思う。突然、ロシア語を始めようと思っているんだけど、などという申し出があつたり、ロシアを旅行したときの話を懐かしそうにしていく方、ロシア料理に参加したい、と協会の入会案内を持ち帰る方も。

2日目に私はフェスタ全体の受付を手

伝ったが、大体2千人以上の来場者があるという話を聞いた。アンケートに答えた人には水のペットボトルとファイルを提供したり、着ぐるみのマスコットが4人も歩いていて子ども達も大勢集まっていた。ホールではジャーナリスト等の講演会があり、同時開催の港区消費生活展も隣で賑わっており、イベントも盛りだくさんで集客率が高いのも納得できる。

マトリョーシカ教室もリーブラではすっかり定着して、職員の皆さんとも顔なじみになってきた。展示会やポスターを新しくするときにも声をかけてくださる。今後は、このような港区の活動にも積極的に協力して、協会活動を更に知つてもらえるようにしたいと思う。来年は、生徒さんがもっと携わった形でのフェスタに参加したい。

いつもながらボランティア精神に溢れたエレーナ先生、応援に来てくれた皆様、ありがとうございました。(常任理事)

協力もいただいたすべて円滑に進行することができました。大使館からはマーリン臨時代理大使、サプリン参事官他5名が代表団と共に戸田港まつりに参加して目配りすると共に、全体の雰囲気を盛り上げてくれました。

なお、会議が終了後ロシア側の一一行は宿所の近辺を散策しましたが、その際、当協会が2005年に建立した御浜岬公園にある記念碑に案内して、設立の趣旨などを説明しました。ロシア側代表団の団長であるコサチョフ議員(ロシア連邦上院議会国際問題委員会議長)は石板に刻まれているロシア語の碑文を丁寧に読み上げ、読み終わるとやや間を置いておおいに感銘を受けたと、重ねて感謝の言葉をいただきました。

「165年前、まだ鎖国の時代にも関わらず戸田村の人々はロシア人たちの辛い状態を理解して、3か月にわたる滞在中、温かくもてなして助けてくれたことに心より感謝を申し上げたい」、「こうした歴史を大切にしてくれている戸田の皆さんはじめ関係者にお礼を申し上げたい」などの言葉に加えて、更に「こうした素晴らしい話は自分だけにとどめるのではなく、広くロシア国民にも知つてもらいたい」と思っている。そのために帰国してからも機会をとらえてお話を戸田を訪れる事を勧めたい」と語ってくれました。今回ロシア議員団に戸田港まつりへ参加していただいたことは本当によかったです。

私たちも日本国内において、戸田港にまつわる史実を更に広く大勢の人たちに知つてもらい、日口間の民間交流の原点に立ち戻って、更に交流が深まっていくことを願わざるを得ません。いまも駿河湾の海底に沈んだままになっているディアナ号(プチャーチン一行が乗つて来日した)が早く発見され、引き上げられる日がくることを祈っています。

終わりになりますが、当協会の常任理事である沼津市の水口議員は、ロシア議員団の予定が未確定の中で種々ご苦労をしながらこの行事の成功に尽力されたことを記し、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。(副会長)

戸田港まつりに参加して

朝妻 幸雄

7月20-21日「第39回戸田港まつり」に参加してきました。例年の通り、戸田の中央桟橋前のおまつり広場をメイン会場としてパレードやステージイベントなどが行われました。更にそこを出発点として幕末の日露友好の歴史に由来する「プチャーチン・ロード・パレード」が行われました。清めの塩撒きを先頭に約200人の参加者が宝泉寺までの約600メートルを鼓笛隊と共にパレードしました。宝泉寺は嘗てプチャーチン提督が戸田号の完成まで滞在していた宿所であり、また無念にも帰国が果たせないまま亡くなったディアナ号の二人の乗組員が眠る墓所でもあります。慰靈祭は莊厳な霧囲気の中で執り行われました。まず僧侶の読経に次いで参列者が次々に焼香し、その後は墓碑に献花しました。

中央桟橋では港に感謝するなどでおおいに盛り上りました。まさに住民と観光客が一体となって楽しんだ夏の日の一コマでした。34度の炎天下であり参加者にはかなりきつい一日でしたが熱中症で倒れる人もなく一連の行事は滞りなく実施されました。私は3年連続で参加していますが、年々参加者が増えていて益々盛り上りがてきているように感じました。

今年は例年と違つてロシアの連邦院議員や在日ロシア大使館関係者からなる訪問団が参加してくれたことです。日口議員連盟の一一行の訪日がこのタイミングとなることが分かったため、東京ではなく戸田で会議を実施することになり、ロシア大使館も早くから主催側の沼津市と準備を進めていました。こうした高位の外交団が戸田港まつりに参加したことは初めてのことだったようです。当協会もミッションのスケジュール調整など橋渡し役としてお手伝いをしました。戸田での会議に手落ちが無いように関係者は少し緊張気味ではありましたがロシア側の